

教育総合センター だより

NO. 177

令和 7. 9. 1



「成長し続ける学校をつくる」

成文小学校

校長 青木 優樹恵

「将来、自立できるように、自分で考え、行動できる子を育てる」というのが、教師になった頃からの私の決意です。1年生を担当することが多かったのですが、1年生の1学期から、学級会を司会も黒板記録も子どもたちができるように指導していました。「1年生でもできるのですね。」とよく言われましたが、1年生だからできないということはないというのが私の考えでした。校長になった今もその思いは変わらず、子どもたちの限界を教師が決めるのではなく、子どもたちにはやりたいことに積極的に挑戦してほしいと常に考えています。

私は、校長として5年目になりますが、私の学校経営の根底には、ウォルト・ディズニーの考え方があります。ウォルトは、「リーダーシップには強い信念、何かを信じる心が必要だ」(『ウォルト・ディズニーの言葉』ぴあ株式会社)と言って、私は、年度当初の学校経営計画の発表時に、その年度のスローガンも発表しています。スローガンは、子どもたちのために教職員が丸となって突き進むための指針です。今年度のスローガンは、創立70周年という節目の年ですので、『初志貫徹』とし、職員室に掲示しています。

ところで、ディズニーランドには、ウォルトが最も大切にしている行動指針があります。それは、『安全』です。「安全が保たれてこそ、ゲストは楽しむことができ、キャストは最高のショーを提供することができる」と、ウォルトは

言います。(『9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの考え方』福島文二郎 中経出版)その考え方は、学校にも十分に通じるところがあります。ですから、私は、教職員にも安全が担保できるのかを問うようにしています。

また、子どもたちにも、安全を第一に、『考える子、優しい子、ねばり強い子』を目指して行動してほしいと機会あるごとに話しています。『考える子』になるために、私は、目標を持ち、それを達成するために何をすればいいのか考えて行動し、達成できたかを振り返るように話します。『優しい子』になる取組として、友だちの優しい行動や自分の頑張っていることをカードに書いて投稿する活動を続けています。自分自身を認め、友だちから認められることが自信につながると考えるからです。そして、学習や行事等の活動において、『ねばり強く』行動することの大切さを話しています。あきらめずにねばり強く取り組み、達成感を得る経験を重ねることが、将来の自立につながると確信しています。

ウォルトの言葉に、「ディズニーランドは永遠に完成しない。世界に想像力がある限り成長し続ける」(『ウォルト・ディズニーの言葉』ぴあ株式会社)というのがあります。学校も同じです。私は、目の前の子どもたちに今何が必要かを判断し、日々成長する学校をこれからも目指します。そして、支えてくださる皆様に感謝して、子どもたちが生き生きと活動する笑顔あふれる学校づくりに励みます。

☆☆令和7年度 尼崎市中堅教諭等資質向上研修（法定研修）の充実に向けて☆☆

1 目的と内容

(1) 目的

中堅教諭等資質向上研修とは、教育公務員特例法第24条の規定に基づき実施される、法定研修です。

中核都市である尼崎市では、在職期間が10年を経過した小学校、中学校、特別支援学校の教諭を対象として、兵庫県教員資質向上指標を踏まえた独自の計画で、本研修を実施しています。教員の個々の能力、適性やニーズに応じた研修に取り組み、指導力や教員としての資質の向上を目指します。

(2) 研修内容

【校外研修（10日）】

共通研修並びに個々の教諭等の能力、適性等に応じた「教科指導等」、「生徒指導等」に関する研修及び教育課題に関する研修。

【校内研修（20日）】

「研究テーマ」を設定し、指導方法や教材開発、文献研究等、教員のニーズに応じた特定課題研究（6日）。「授業力向上を目指す課題」に応じた研修（14日）。

2 共通研修（Ⅰ・Ⅱ）の様子・受講者の声

(1) 共通研修Ⅰ（生徒指導等）

【内容】「ポジティブ行動支援に基づく安心安全な学校づくり」

【講師】大阪教育大学 准教授
庭山 和貴 氏

庭山氏の講話では、受講者自身のこれまでの実践を振り返ることが出来る内容であり、困った事に対する事後的対応だけでなく、「望ましい行動を増やすアプローチ」の方法等について、学びを深める研修となりました。

【受講者の声】

- ◇ 人とひとのやり取りは、思いやりの心が大切だと感じました。学級経営でも同じだと思います。学級が始まり一ヶ月、今必要なエッセンスを入れて頂きました。
- ◇ 年数を重ねるごとに、褒めることが減ってきたような気がしていました。今回の研修をいかして、子供たちの良いところを積極的に褒めていこうと思いました。

(2) 共通研修Ⅱ（教育課題）

【内容】「阪神淡路大震災から30年
～歌の力を信じて～」

【講師】神戸親和大学 教授
臼井 真 氏

臼井氏の講話は、震災当時に神戸市立の学校で勤めていた経験やご自身の被災体験、つながりのあるご遺族の話等、動画を交えながらの内容でした。涙ぐむ教員がいるなど、防災意識の醸成や震災の経験を語りつぐ大切さを学んだ研修となりました。

【受講者の声】

- ◇ 震災を経験していない世代がどのような言葉を選んで次世代に伝えていくか、一つひとつの言葉を選んで話をしていくことの重要性を改めて感じました。
- ◇ 地震の怖さや対策、残された者の思いなどをしっかり受けついでいくことが教師の役目だと強く感じました。



(5/8: 共通研修Ⅰ)



(7/22: 共通研修Ⅱ)

3 終わりに

本研修を通し、尼崎市の課題や展望を見つめ、実践力をより高めるとともに、校内のミドルリーダー的な役割や若手教員のサポート等、教育活動に生かせる研修内容となるように、研修内容を精選し、工夫、改善をおこなってまいります。

(学び支援課 指導主事 橋口 裕司)

☆☆校内サポートルーム・エリアについて☆☆

安心して過ごせる「居場所づくり」

はじめに

令和5年度の小・中学校における不登校の児童生徒数は、全国で34万人を越え、11年連続で増加しています。尼崎市においても年々増加傾向にあり、小・中学校とも出現率は全国を上回っており、早期に対応すべき課題となっています。また、不登校にはなっていませんが、不登校傾向にある児童生徒も多く存在しています。

この社会的課題にもなっている不登校の未然防止の視点から、集団での学びに「しんどさ」を抱える児童生徒の居場所・回避場所として設置されている校内サポートルーム・エリアについてお伝えします。

目的

すべての児童生徒にとって心理的な安心・安全を感じられる場を設置していくことで、不登校の未然防止につなげています。また、行き渋りや週数日の欠席など、不登校傾向にある児童生徒の心身の負担を軽減しています。

具体的な取組例

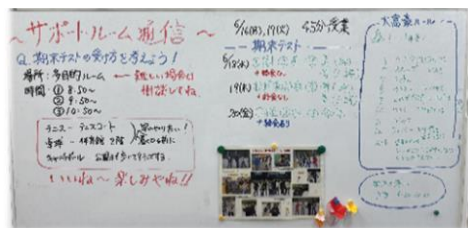
・自分のペースで学ぶことのできる

「学習スペース」

周りの目が気にならないようにパーテーションや机の配置を工夫し、心理的安全性を高めています。



「行事の予定をホワイトボードで情報共有」



・気持ちを落ち着かせることのできる

「リラックススペース」

ソファやビーズクッション、フロアマットなどを設置し、リラックスできる空間をつくっています。



安心して過ごすことができる「居場所」になるためには、部屋の環境を整えるだけでなく、校内サポートルーム・エリアでの教師や支援員の関わり方や声かけなども重要です。担任の先生が毎時間関わるのが難しい現状を鑑み、学習サポート事業として令和6年度途中から学習支援員（不登校児童生徒支援）を配置しています。今年度は、小学校29校と中学校17校（全中学校）に配置しており、来年度は小学校全校配置を目指しています。

すべての児童生徒が校内サポートルーム・エリアを利用することができますが、利用する前に保護者・担任・管理職などと面談を行い、利用する目的やきまりを共通理解している学校もあります。

おわりに

校内サポートルーム・エリアは、集団での学びにしんどさを抱える児童生徒の居場所であり、教室復帰を前提としたものではありません。しかしながら、児童生徒が利用する中で、自己肯定感や自己有用感が高まり、再び教室での学びにつながることは大事なことです。校内サポートルーム・エリアが子どもたちの支援の1つになり、明るい未来につながることを願っております。

（こども教育支援課 係長 菅沼 翔吾）

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。
また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

(3F 教育情報コーナー)

【新着図書】

- ・『中学生が多文化共生について本気で考えてみた』
山崎寛己 著／東洋館出版社
- ・『自己調整につながる学習理論をビジュアルでまとめました』
白杉亮 著／明治図書
- ・『発達障害の子どもが「困らない」学校生活へ 多様な特性のまま、日常の「ふつう」を見直そう』
安井政樹・野口晃菜 著／NHK出版
- ・『図解最新教育ワード 2025-2026』
教育の未来を研究する会 編／明治図書
- ・『学校とジェンダー 「ふつう」って何?』
山根真理・高橋靖子 編著／学事出版
- ・『「主体性」はなぜ伝わらないのか』
武藤浩子 著／筑摩書房
- ・『私たちの「インクルーシブ学級」を語り合おう』
阿部利彦・川上康則・菊池哲平 編著／東洋館出版社
- ・『「生徒指導部」から「生徒支援部」へ』
逸見峻介 著／学事出版

(担当 松浦)

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『ひとりもとりこぼさない学校へ』 部落、貧困、障害、外国ルーツの若者の語りから

2025年2月初版発行 株式会社 岩波書店

著者 志水 宏吉：武庫川女子大学教育研究所長、専門は教育社会学、学校臨床学

主な著書：『ペアレントクラシ「親格差時代」の衝撃』（朝日新書）『学力格差は正策の国際比較』

（共著、岩波書店）等多数。

本市にもかかわりの深い志水教授の最新の著書である。4つのマイノリティ集団に所属する若者たちが、学校教育システムにおいて、いかに排除されているのか。その現実に対抗して、彼らをより積極的に包摂し、彼らが望む教育を保障する学校教育システムをいかに再構築しうるか。若者への聞き取り調査を通じて、彼らのリアルな声を丁寧に聞き取り、社会的公正を支える新しい教育システムのあり方を探る読み応えのある内容である。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)